

滋賀県版孤独・孤立対策官民連携プラットフォームの形成：県民の孤独・孤立実態調査

調査概要

調査目的： 県民の孤立・孤独の実態について、広く現状や課題を把握すること

実施期間： 2022年12月

アンケート手法： インターネット調査（県内在住者対象）

アンケート内容： 内閣官房が令和4年に実施した「人々のつながりに関する基礎調査」と比較できるよう、ほぼ同じ調査項目を設定し、直面している課題等について質問。

有効回答数： 3,600人

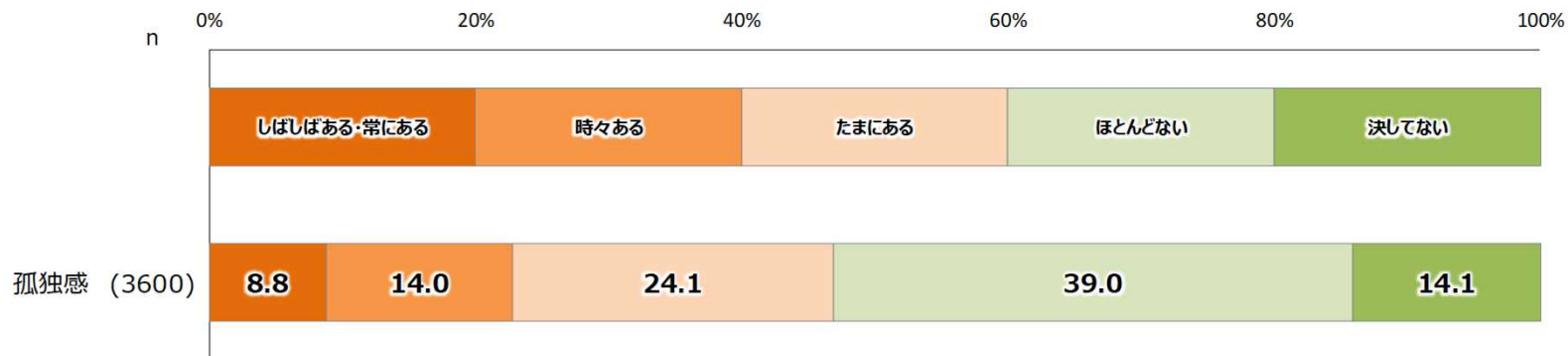
①年齢階級別・性別の回答者数

有効回答数は3,600人であり、最も回答者数が多かったのが、40歳代および50歳代である。40歳代の回答は男女比はほぼ同じであるが、若年層の回答者は女性が多く、年齢が上がるほど男性の回答者が多くなっている。

		合計	男性	女性	その他(どちらともいえない・わからない・答えたくない)
総計	%	3600	51.2	48.0	0.9
年齢階級	15～19歳	188	26.6	69.7	3.7
	20～29歳	366	24.0	76.0	0.0
	30～39歳	677	32.2	66.6	1.2
	40～49歳	848	50.4	48.8	0.8
	50～59歳	848	64.9	34.3	0.8
	60～69歳	469	74.6	24.9	0.4
	70～79歳	175	76.6	23.4	0.0
	80歳以上	29	86.2	13.8	0.0

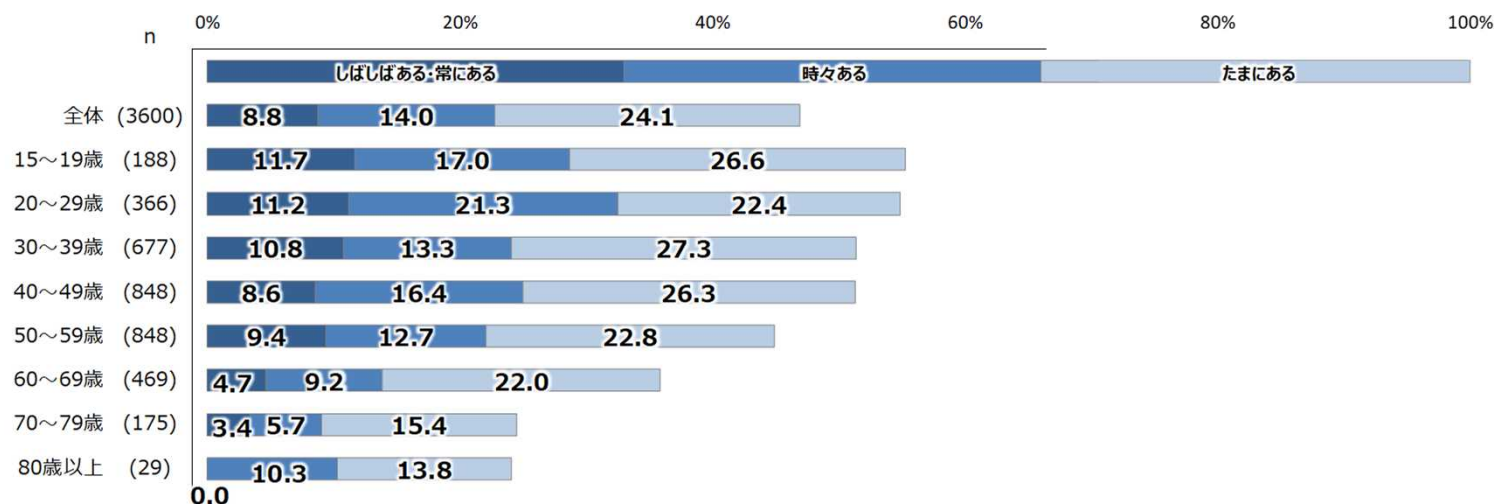
②孤独の状況

孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人の割合は8.8%、「時々ある」が14.0%、「たまにある」が24.1%となっている。一方、孤独感が「ほとんどない」と回答した人の割合は39.0%、「決してない」が14.1%となっている。



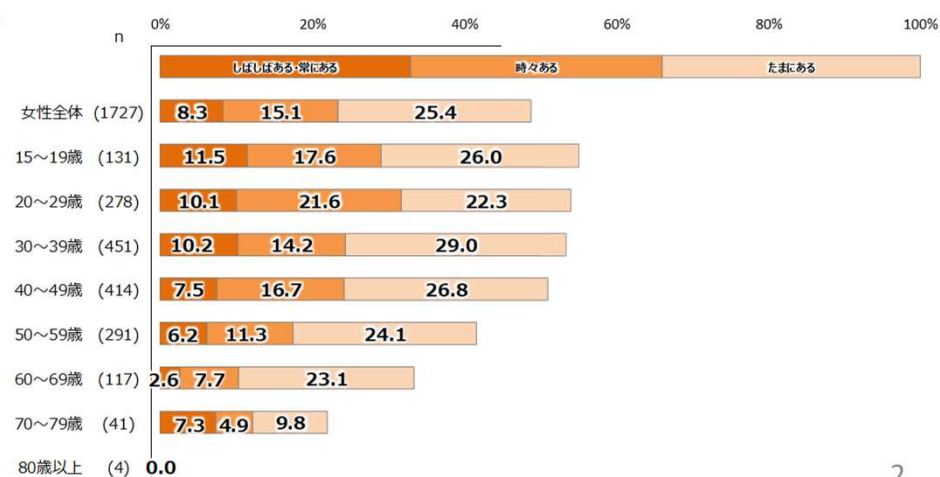
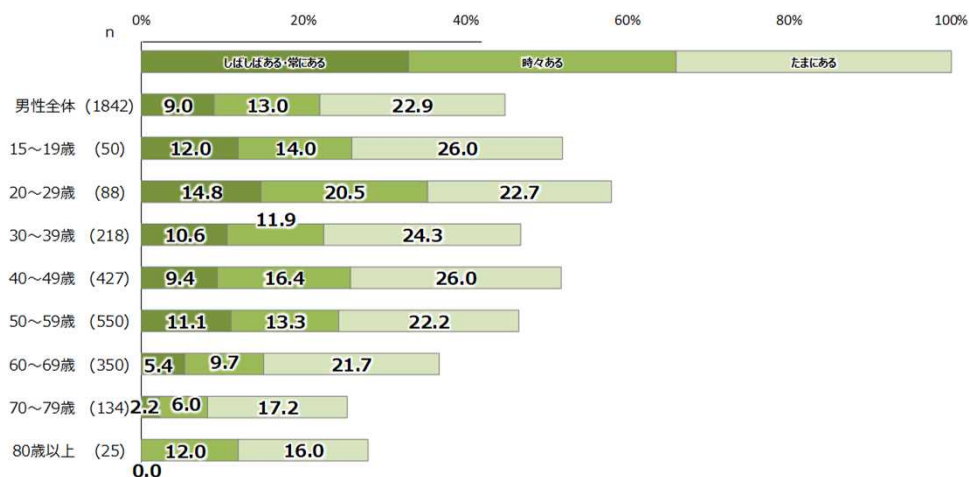
③年齢階級別孤独感

孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人の割合が最も高いのは、10歳代で11.7%となっている。一方、年齢が高くなるほどその割合は低くなる傾向にあり、70歳代では3.4%となっている。



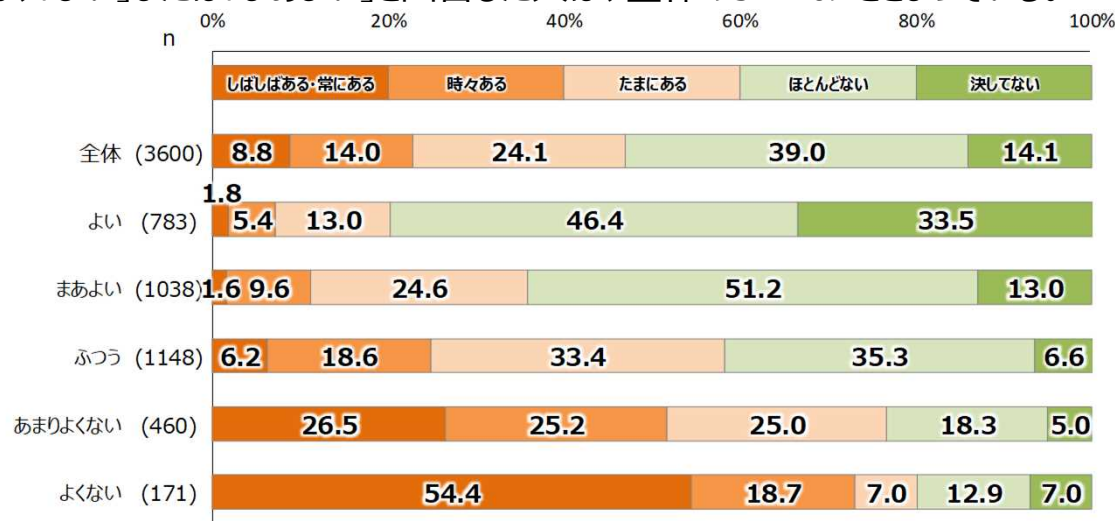
④男女、年齢階級別孤独感

男女別にみると、孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人の割合は、男性が9.0%、女性が8.3%となっている。年齢階級別にみると、男性は20歳代の割合（14.8%）が最も高く、女性は10歳代（11.5%）が最も高い。



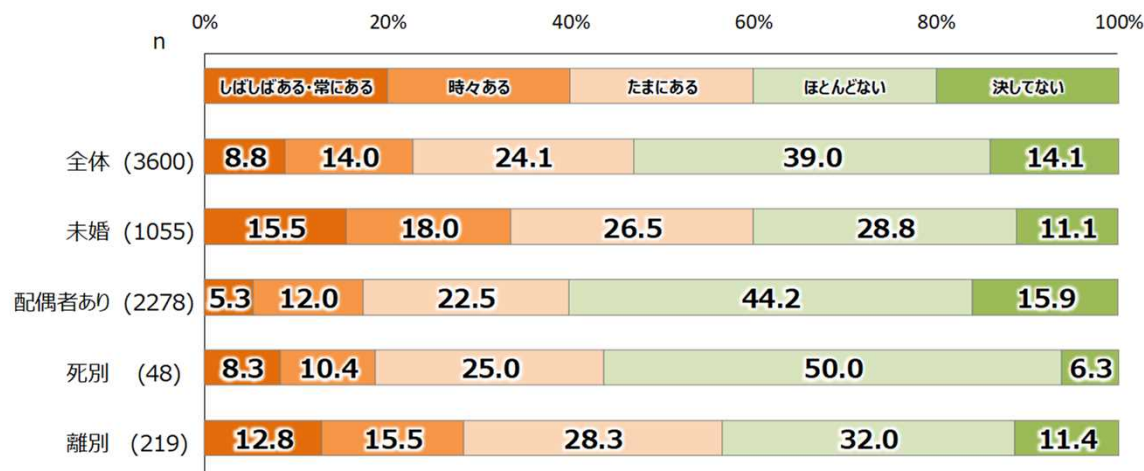
⑤心身の健康状態別孤独感

現在の心身の健康状態別にみると、孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人の割合は、「よくない」という人が54.4%で最も高くなっている。一方、「よい」または「まあよい」と回答した人は、全体の3.4%にとどまっている。



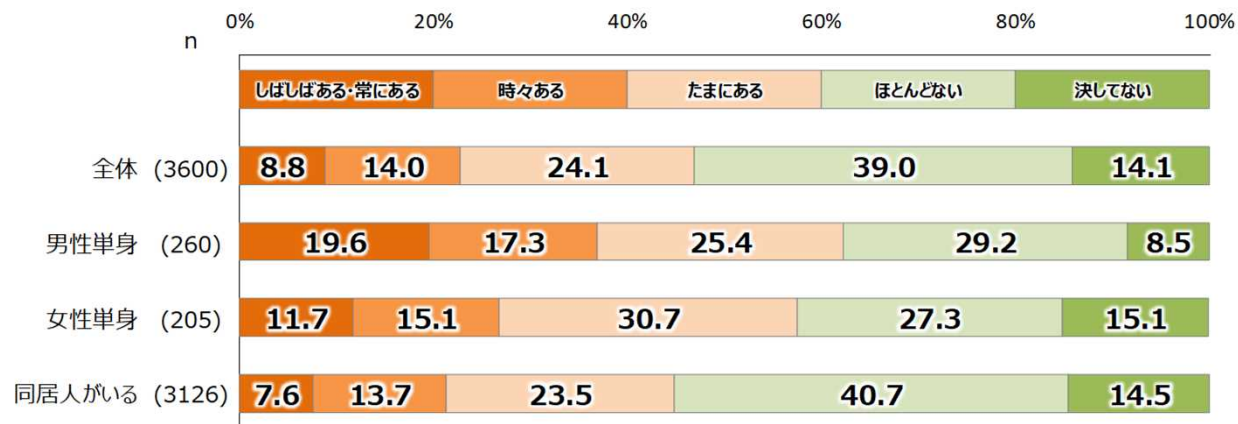
⑥配偶者の有無別孤独感

配偶者の有無別にみると、孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人の割合は、未婚者が15.5%、「配偶者あり」が5.3%となっている。なお、「配偶者」には事実上、夫婦として生活しているが、婚姻届を提出していない場合も含まれている。



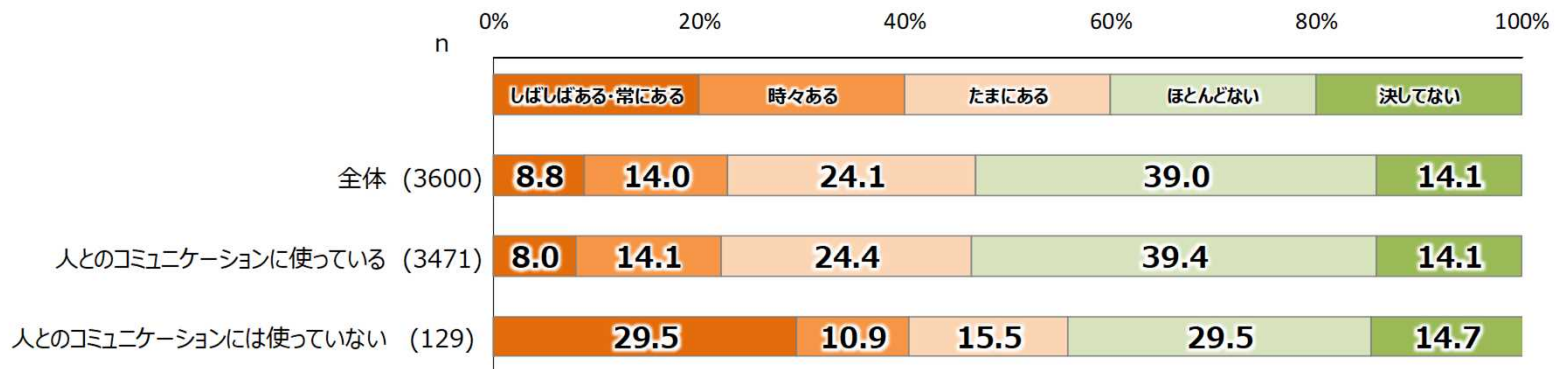
⑦男女別単身者の孤独感

単身者を男女別にみると、孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人の割合は、男性が19.6%、女性が11.7%となっている。



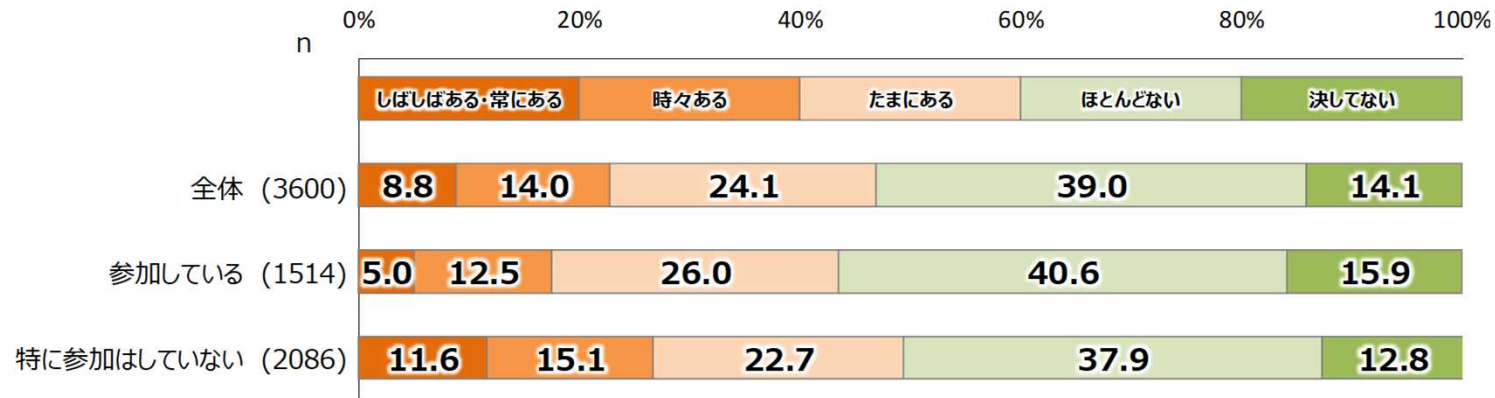
⑧普段のコミュニケーションツールの利用状況別孤独感

固定電話・FAX、携帯電話・スマートフォン、タブレット型端末、パソコン、その他の通信機器（インターネットに接続できるゲーム機器等）を人とのコミュニケーションに使っている人のうち、孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人の割合は8.0%となっている。一方、人とのコミュニケーションに使っていない人のその割合は29.5%となっている。



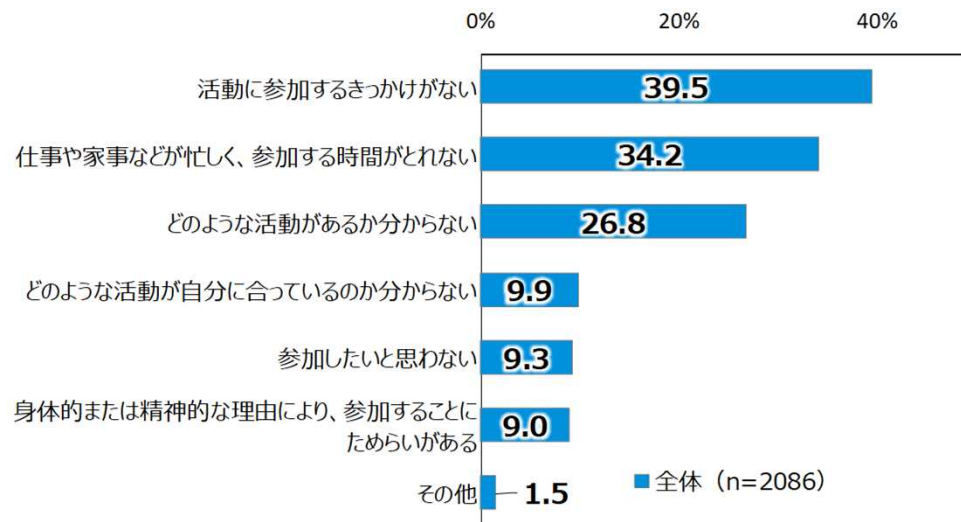
⑨社会活動への参加状況別孤独感

現在の社会活動（人と交流する活動のみ）への参加状況別にみると、孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人の割合は社会活動に参加している人が5.0%、特に参加していない人が11.6%となっている。



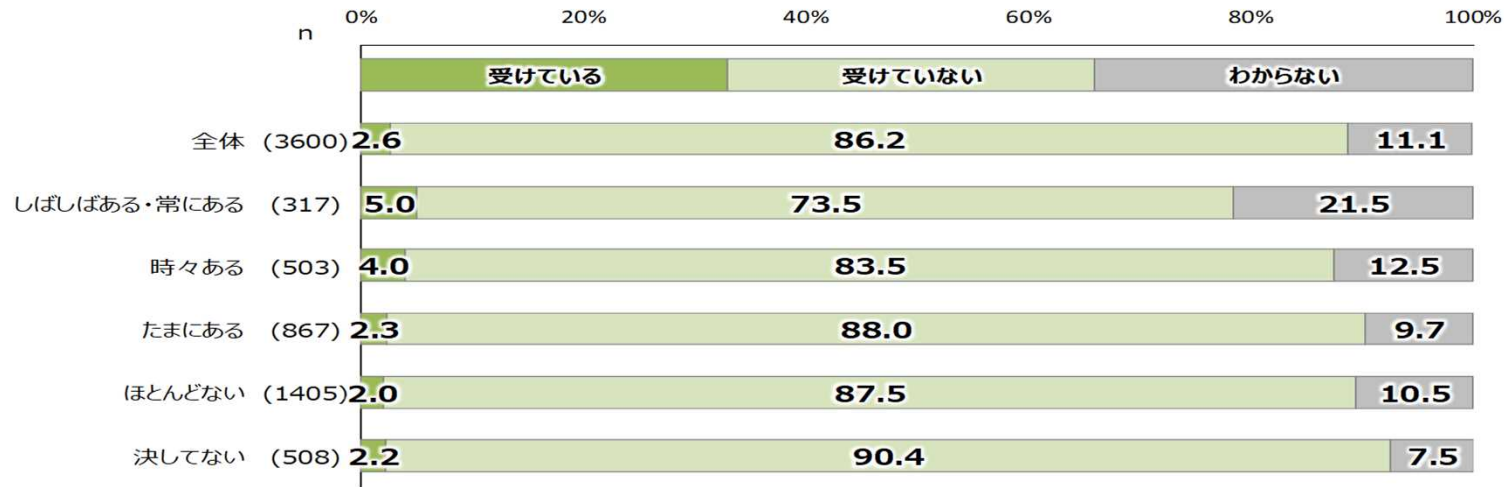
⑩社会活動に参加していない理由【複数回答】

「特に参加していない」と回答した人の理由は、「活動するきっかけがない」が39.5%で最も多く、「仕事や家事などが忙しく、参加する時間がとれない」が34.2%、「どのような活動があるか分からない」が26.8%と続いた。



⑪ 孤独感別行政機関・NPO等からの支援の有無

孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人のうち、現在、行政機関やNPO等の民間団体から困りごとに対する支援（対価を直接支払うものを除く）を受けている人は、5.0%となっている。



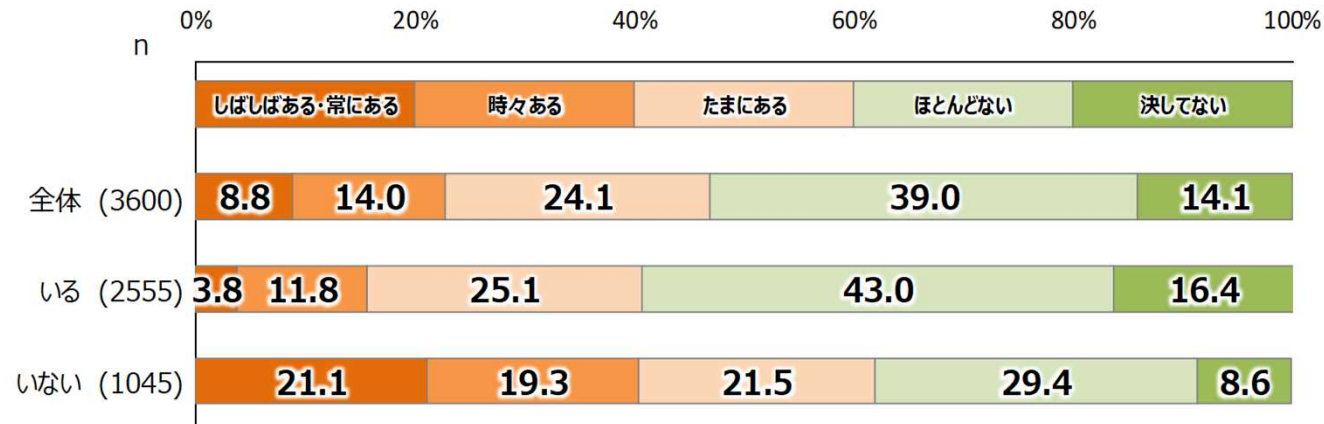
⑫ 孤独感別支援を受けていない人の理由

孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人のうち、現在、行政機関やNPO等の民間団体から困りごとに対する支援（対価を直接支払うものを除く）を受けていない人のその理由は、「支援が必要ではないため」を除くと、「支援の受け方がわからないため」が21.0%で最も高くなっている。

	n	い支援が必要ではない	我慢援たが必要程だが、	支援の受け方が	支援の継続が困難なため	支援の受け方がわからない	支援の受け方がわからない	支援の受け方がわからない	その他
全体	3104	83.3	4.6	8.3	3.2	1.6	1.3	0.4	5.0
しばしばある・常にある	233	63.5	7.3	21.0	9.4	8.6	3.4	0.4	7.7
時々ある	420	76.4	6.9	12.4	4.8	2.4	2.4	1.0	6.2
たまにある	763	81.4	5.2	9.3	4.2	1.2	2.0	0.4	5.4
ほとんどない	1229	87.2	3.7	5.9	1.8	0.9	0.6	0.2	4.6
決してない	459	92.4	2.2	2.8	0.7	0.2	0.2	0.2	2.8

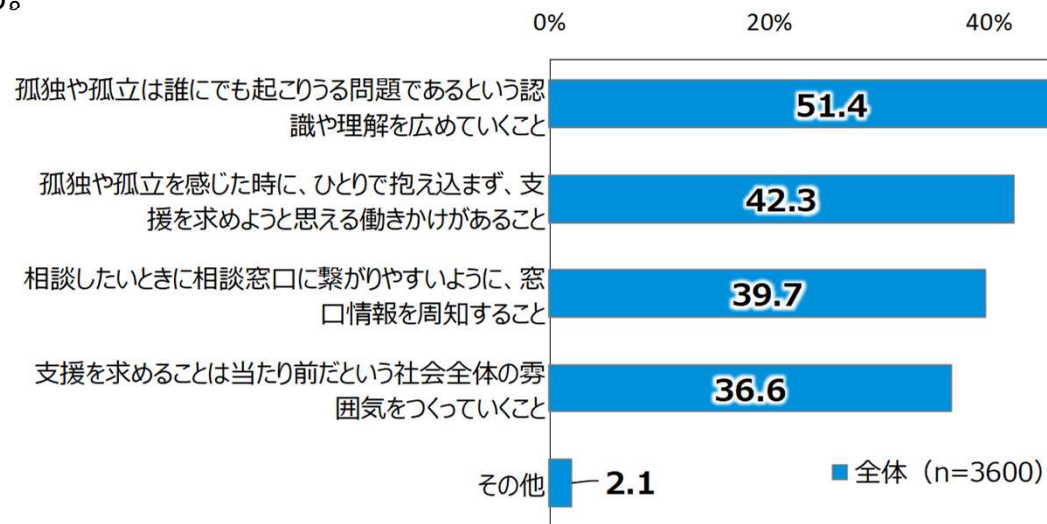
⑬不安や悩みの相談相手の有無別孤独感

不安や悩みの相談相手の有無別にみると、孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人の割合は、相談相手がいる人が3.8%、相談相手がない人が21.1%となっている。

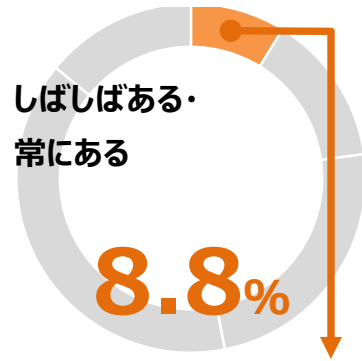


⑭支援を求める声をあげやすい社会にするために必要な取組【複数回答】

支援を求める声をあげやすい社会にするために必要な取組については、「孤独や孤立は誰にでも起こりうる問題であるという認識や理解を広めていくこと。」が51.4%で最も多いが、「孤独や孤立を感じた時に、ひとりで抱え込まず、支援を求めようと思える働きかけがあること。」や「相談したいときに相談窓口に繋がりにやすいように、窓口情報を周知すること。」など、他の項目の回答もそれぞれ多くなっている。



⑮あなたはどの程度、孤独であることを感じることがありますか。



しばしばある・常にある	8.8%
時々ある	14.0%
たまにある	24.1%
ほとんどない	39.0%
決してない	14.1%

